



令和3年度 各ブロック研究大会 の開催方法について の調査研究報告

公益社団法人 日本PTA全国協議会
調査研究推進室

はじめに – この調査の目的について –

- 今年度（令和3年度）のブロック研究大会の多くは、新型コロナウイルスの感染拡大等の影響を受け、当初計画から開催方法の変更を余儀なくされました。
- 開催方法の変更にあたっては、それぞれの実行委員会が創意工夫を凝らして、現状可能な中で最大の効果が得られるように考えた形式であったと考えます。
- そこで考えられた手法は、コロナ禍における緊急避難的な対応という側面だけではなく、オンラインの積極的な活用によって広くPTA会員が参加することが可能となるなど、今後のブロック研究大会のヒントとなる点も多いと考えられます。
- 今年度の各ブロック研究大会を貴重な財産として、その理念や手法を全国の地方協議会に紹介することで、次年度以降のブロック研究大会等に活かされるものと考え、以下にとりまとめます。

※九州ブロック研究大会は全国大会と合わせての開催のため、本調査対象からは除外しています。

調査研究推進室長 宮本 隆司

北海道ブロックの概要（担当：北海道）

	当初計画	変更後
開催日時	令和3年10月9日	令和3年10月9日（教育講演会） 令和3年10月17日～12月19日 （実践事例発表）
会場	北海道岩見沢市 イベントホール赤レンガ 他	札幌市教育文化会館（教育講演会） 札幌市教育文化会館、各発表校（実践 事例発表）
開催形式	リアル開催	オンライン形式
参加者数	900人	—
参加費	4,500円	なし
広報媒体	各地区からの文章配布・HP掲載	

研究大会としては中止し、「北海道ブロック教育講演会」「北海道の特色ある実践事例発表」として開催

北海道ブロックのオンライン形式の詳細

分科会	全体会
YouTube	
研究大会が中止となったため、分科会提言校においては新たに「北海道の特色ある実践事例発表」という形で事前収録を行い、オンライン配信として実施	なし



東北ブロックの概要（担当：岩手県）

	当初計画	変更後
開催日時	令和3年9月4日(土)～5日(日)	令和3年9月4日(土)
会場	盛岡地域交流センター、いわて県民情報交流センター	盛岡地域交流センターから全体会を配信、その他、東北各地で収録
開催形式	リアル開催	オンライン形式
参加者数	1,800人	957人
参加費	3,500円	2,000円
広報媒体	紙媒体（一次案内、二次案内）、岩手県PTA連合会HP	



東北ブロックのオンライン形式の詳細

分科会	全体会
<p>リアルタイム：Zoomウェビナー、Zoomミーティング 後日配信：Vimeo</p>	<p>リアルタイム：Zoomウェビナー 後日配信：Vimeo</p>
<ul style="list-style-type: none"> • 分科会の内容は基調講演とパネルディスカッションで、講師とパネリストはそれぞれ東北各地からリモート参加 • 全4分科会のうち、1つの分科会をZoomウェビナーで当日リアル配信すると同時に収録 • あとの3分科会は、Zoomミーティングで大会当日収録 • 後日、委託業者が編集して全4分科会をWeb上に公開（1か月間） 	<ul style="list-style-type: none"> • Zoomウェビナーで当日リアル配信すると同時に収録 • 委託業者が編集し、後日、分科会とともにWeb上に公開（1か月間） • 登壇予定者は、それぞれ東北各地からリモート参加 <ul style="list-style-type: none"> • 開会のことば • 主催者あいさつ • 大会宣言 • 次期開催地あいさつ • 閉会のことば • 国歌とPTAの歌、次期開催地のPRビデオはZoomのホストが映像を流した <ul style="list-style-type: none"> • PTAの歌は事前に日P事務局から入手 • PRビデオも事前に次期大会事務局から送ってもらった • 日P清水会長と県知事の祝辞は事前収録ビデオメッセージを流した • 時間短縮のために一部割愛 <ul style="list-style-type: none"> 市長の歓迎のことば、来賓紹介と祝電披露、感謝状と表彰状の贈呈、受賞者代表謝辞



関東ブロックの概要（担当：埼玉県）

	当初計画	変更後
開催日時	分科会：令和3年10月15日(金) 13:00～16:30 全体会：令和3年10月16日(土) 9:20～13:00	分科会：埼玉県内6か所の会場で収録 全体会：令和3年10月16日(土) 10:00～13:00
会場	分科会：埼玉県内6か所の会場 全体会：さいたま市文化センター	全体会：さいたま市文化センター
開催形式	リアル開催	オンライン形式
参加者数	2,000人	—
参加費	4,000円	2,000円
広報媒体	埼玉県PTA連合会ホームページ・チラシ	



関東ブロックのオンライン形式の詳細

分科会	全体会
Vimeo	Vimeo
第1～第6分科会：事例発表、講師講演 録画収録 令和4年1月14日まで後日配信(会員向けパスワードをチラシに載せ配付)	ライブ配信 会場参加者：各協議会から5名まで・表彰受賞者 【開会】 ・大会宣言 ・記念講演 ・表彰 ・次年度引き継ぎ 【閉会】 後日配信では映像に文字入力 令和4年1月14日まで後日配信(会員向けパスワードをチラシに載せ配付)



東海北陸ブロックの概要（担当：岐阜県）

	当初計画	変更後
開催日時	令和3年10月22日～23日	令和3年10月22日～令和4年2月20日
会場	長良川国際会議場	長良川国際会議場
開催形式	現地参加＋全体会記念講演のみストリーミング配信	当日全体会ライブ＋分科会はオンデマンド配信
参加者数	1260（例年の半数）＋オンライン視聴者多数	ブロック内の会員を対象に告知
参加費	3500円	協力金（分担金）1000円（リアル参加者数を基準に算出）
広報媒体	書面＋WEB告知（配信開始1ヶ月後に大会ダイジェスト版動画を作成してブースター広報）	



東海北陸ブロックのオンライン形式の詳細

分科会	全体会
YouTube	YouTube
<ul style="list-style-type: none">発表校、講評、分科会講演会の全てを事前収録し、23日全体会のライブ配信終了後よりオンデマンド配信発表校は各学校で撮影編集後、配信用の動画として大会事務局へ提出講評と分科会講演は、事前に撮影と編集を地元ケーブルテレビ局へ依頼最終的に出来上がった動画を岐阜県P連で取りまとめYouTube上で配信準備岐阜県P連Webサイト、ぎふ大会ページにて配信	<ul style="list-style-type: none">全体会の撮影と配信は地元ケーブル局に依頼し、定刻どおりにライブで配信した大会の会場は当初の予定通り長良川国際会議場を使用した。客席での観覧は一切なく舞台をスタジオ化してオンライン視聴者向けに特化した形で開催配信式典はステージ上に役員席などを設けず、司会ブース、登壇ブースを設けて、カメラの切替で移動時間を省略国歌演奏、PTAの歌演奏は、地元中学校吹奏楽部に演奏を依頼し、事前収録して当日配信記念講演は事前収録したものをケーブル局の放送センターから配信講演会は別に設けたライブ配信閲覧コーナーで視聴（会場スタッフ）会場に集まったのは各県市の会長と事務局、功労者表彰の被表彰者（代表者受領者のみ）、大会実行委員会のメンバー（当日の大会運営に必要な最小限のメンバー）今大会の動画配信は、岐阜県PTA連合会のWebサイトよりパスワード付ページで配信



近畿ブロックの概要（担当：大阪市）

	当初計画	変更後
開催日時	令和3年11月9日（火） 10:30～16:00	分科会：令和3年11月6日（土） 10:30～16:00 全体会：令和3年11月7日（日） 13:00～16:00
会場	大阪国際会議場（グランキューブ大阪）	全体会：リーガロイヤルホテル（大阪）
開催形式	リアル開催＋補完的にライブ配信（全体会）、収録動画の後日配信（分科会）	オンライン形式
参加者数	2,500人	—
参加費	3,000円	参加費無料 各協議会の協力金 各50,000円
広報媒体	Webサイト、LINE公式アカウント、チラシ	



近畿ブロックのオンライン形式の詳細

分科会	全体会
リアルタイム：Zoom、後日配信：YouTube	YouTube（当日のリモート参加：Zoom可）
<p>Zoomによりリモート会議形式でリアルタイムに参加。</p> <ul style="list-style-type: none">・第1～第5分科会：事例発表（同時開催）・第6分科会：講演会・参加体験型分科会：謎解きイベント <p>参加体験型はグループで参加し、課題に取り組む。 参加申し込みは、参加体験型以外は協議会でのとりまとめを行わず、個人が申込サイトから申し込むこととした。</p> <p>Zoomのミーティングをレコーディングし、11/13～30に後日配信（YouTube）</p>	<p>YouTubeによるライブ配信（会場に来れない表彰者やいくつかのパブリックビューイング会場等からのZoom参加も可能） 会場参加者：各協議会の理事・代表委員・事務局、表彰受賞者、来賓（計151人） アトラクション：大阪ジュニアバンドの演奏動画を上映</p> <ul style="list-style-type: none">・開会式・表彰式・大会宣言決議・記念講演・次年度引き継ぎ <p>手話通訳あり 配信用に実況アナウンサーを配置 アーカイブ配信は記念講演の講師との関係から当日の20:00までフルバージョンを配信 記念講演部分をカットして分科会の動画とともに後日配信</p>



中国ブロックの概要（担当：島根県）

	当初計画	変更後
開催日時	令和3年11月6日（土） 12:45～16:40	令和3年11月6日（土） 12:45～16:40
会場	島根県芸術文化センター「グラントワ」	島根県芸術文化センター「グラントワ」
開催形式	リアル開催（開催地： <u>島根県内</u> PTA会員）＋オンライン形式	リアル開催（開催地： <u>益田市内</u> PTA会員）＋オンライン形式
参加者数	1,500人	1,500人
参加費	2,000円	2,000円
広報媒体	Webサイト、チラシ（通常時の案内と同じ）	



中国ブロックのオンライン形式の詳細

分科会	全体会
	YouTube
なし	<p>YouTubeによるオンライン（個人参加およびパブリックビューイング会場等から参加） 会場参加者：各協議会の理事・代表委員・事務局、表彰受賞者、来賓、益田市内PTA会員（約100人） 12:30～12:45 [55分] 受付 12:45～13:45 [55分] 開会式（表彰） 13:45～14:45 [60分] 実践発表 14:45～15:00 [15分] 次回開催PR（動画） 15:00～16:30 [90分] 記念講演 16:30～16:40 [10分] 閉会式</p> <p>手話通訳あり 当初アーカイブ配信を予定していましたが、講演者の資料に著作権に触れる映像・音楽があったため、全てのアーカイブ配信を中止とした。</p>



四国ブロックの概要（担当：高知県）

	当初計画	変更後
開催日時	令和3年11月13日（土） 12:00～16:55	令和3年11月13日（土） 12:00～16:55
会場	高知県立県民文化ホール	高知県立県民文化ホール
開催形式	リアル開催（高知県のみ） + ライブ配信（各県にサテライト会場設置）	リアル開催（高知県のみ） + ライブ配信
参加者数	800人	800人
参加費	2,000円	2,000円
広報媒体	チラシ	

（注）調査票の提出時には「当初計画」のまま変更なしとしていたが、より詳細に変化がわかるように、ライブ配信の視聴形態の変更を計画変更として反映した。（P27～の座談会以降に変更したため、座談会の動画コンテンツで画面共有した資料とは異なる。）



四国ブロックのオンライン形式の詳細

分科会	全体会
	YouTube
なし	YouTubeによるライブ配信（高知県以外の参加者にURLの通知） 会場参加者：PTA会員、四国ブロック協議会会長（高知県）、実行委員長、共催者、表彰受賞者、来賓（計252人） <ul style="list-style-type: none">・開会式・表彰式・記念講演・大人の宇宙サイエンス教室・次年度引き継ぎ

リモート度・リアルタイム度について

	分科会		全体会	
	会場参加者		会場参加者	
	少	多	少	多
高				
低				

オンデマンド配信にも対応

無観客



一定数の観客あり

オンライン形式のイベントを企画する際に考慮する点は、リアル会場にどれぐらいの参加者を入れるのかということ（リモート度）と、リアルタイム性をどれぐらい重視するのかということである。

令和3年度の傾向として、式典色が強い全体会はライブ配信によりリアルタイム性を重視するが、分科会はリアルタイム性よりもオンデマンドでじっくりとコンテンツを見てもらうことを重視していると言える。なお、リアルタイム性を重視しているものについても、中国ブロック・四国ブロックの全体会以外はすべてオンデマンド配信を行っている。

今後、リアル開催の障壁がなくなった際に、リアル開催のみとするのか、オンラインを併用するのか、オンライン主体とするのかについて十分な検討が必要となる。

リアルタイム配信とオンデマンド配信について

	リアルタイム配信 ＜ライブ配信＞ ＜リモート会議・ウェビナー形式＞ 生放送を視聴してもらう	オンデマンド配信 ＜後日配信＞ 事前に作成した動画を配信サービスに アップロードして視聴してもらう
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 主催者側は、本番のみで完結する。 参加者側は、「その時」に参加しないといけ ないというイベント参加の動機づけが強い。 みんなで一緒にイベントに参加している感 覚が高くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 主催者側は、動画を作り込めるメリットがあ る。（テロップやBGM、特殊効果の追加 等） 参加者側は、動画を自分の都合のいい時 に視聴することができる。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 生放送のため、一発勝負になる。 動画を作り込むことができない。 開催日時が特定されているので、都合が 悪い人は参加できない。 	<ul style="list-style-type: none"> いつでも見ることができることが逆に見るこ との動機づけを低下させることにもなる。 みんなで一緒にイベントに参加している感 覚が薄くなる。

両方の特性を頭に入れて、どの形式で配信するのか、どう組み合わせるのが効果的かを検討する

ツールの比較

Zoom	YouTube	Vimeo
リモート会議、ウェビナー	動画配信サービス	動画配信サービス
<ul style="list-style-type: none"> 参加者は生のコンテンツに触れるため参加している感覚が高い 無料アカウント：時間（40分）と参加者数（100人）の制限あり（ミーティング） プロアカウント：時間制限が拡大、大規模ミーティングオプションで100人超のイベントが開催可能。配信サービスと連携すれば広範囲にライブ配信も可能 会議をレコーディングすることで、録画データを後日配信することが可能（配信サービスから） 	<ul style="list-style-type: none"> リアルタイム：ライブ配信機能を使用（無料で利用可能） オンデマンド：動画アップロード機能を使用 「限定公開」とすることで、URLを知っている人しか視聴できなくできるが、パスワード設定はできないため、パスワードで制限したい場合は、Webサイトに動画を埋め込んで、Webサイトのページにパスワードを設定するなどの工夫が必要 広告が表示される 	<ul style="list-style-type: none"> ライブ配信を行うには有料のVimeo Premiumプランが必要 動画配信のプラットフォームとして、YouTubeに比べて認知度は低いが、広告が入らない、パスワード設定が可能等のメリットがある

ZoomミーティングとZoomウェビナーの違い (東北ブロックの例)

Zoomミーティング	Zoomウェビナー
<ul style="list-style-type: none"> • 会議であるため、ホストは存在するものの、基本的には参加者は同列の位置付けで、お互いに資料を共有したり、意見を発したりする • オプションにより最大1,000人まで参加可能 	<ul style="list-style-type: none"> • セミナーを表現しているため、登壇者（ホスト、講師（パネリスト））と参加者で役割が明確に分けられ、画面への登場、資料の共有や発言は登壇者のみ • Zoomの有料アカウントが必要 • 最大10,000人の参加可能



全体会でも出演者がリモート出演で開催できる



自主運営か外部への委託か

	分科会			全体会	
	コンテンツ作成	リアルタイム配信	オンデマンド配信	コンテンツ作成&リアルタイム配信	オンデマンド配信
自主運営					
外部委託					

今後、リアル開催の障壁がなくなった際に、リアル開催のみとするのか、オンラインを併用するのか、オンライン主体とするのかについて十分な検討が必要となるが、検討に当たっては、オンライン活用の際に必要な経費についても考慮する必要がある。

<リアルタイム配信>
 安定的なネットワーク環境の構築：同時視聴数を何人ぐらい見込むか
 コンテンツの作成、配信：自主運営か外部の専門業者に依頼するのか

<オンデマンド配信>
 コンテンツの作成：自作か外部の専門業者に依頼するのか
 配信：動画のアップロードやホームページ掲載について、自分たちで行うのか、外部の専門業者に依頼するのか

リアルタイム配信は配信業務に、オンデマンド配信はホームページ作成業務に着目して分類した。

Zoomによる複数分科会の同時開催 (近畿ブロックの例)



イヤホンマイクやヘッドセットの使用によるハウリング対策をとれば、同じ会場で複数ミーティングの同時開催も可能



大がかりな設備等は基本的に不要なため、自主運営で対応が可能

絵画はバーチャル背景で整え

動画の事前収録イメージ（関東ブロックの例）



本格的な会場や機材での撮影でも



スマホでの撮影でも



この後、収録した動画の編集、テロップやBGM、特殊効果の追加等により動画を完成させる

ライブ配信環境イメージ（近畿ブロックの例）



カメラの切り替えやテロップ等、基本的には専門業者による運営が不可避

ライブ配信の映像スタイルについて 舞台中継型か、番組放送型か



会場に一定数の観客を入場させ、式典を中継するスタイルで配信した近畿ブロックカメラ5台によるカメラワークの切り替えのほか、実況担当アナウンサーを配置するなど変化や刺激作りにも取り組んだ

全体会のライブ配信を検討する際、映像のスタイルは大きく次の2つに分類できる。

1. イベントの様相を中継して放送する
2. スタジオから番組を放送する

会場に一定数の観客を入場させる場合は必然的に1のスタイルとなるが、遠景の固定映像では視聴者が退屈してしまいかねないので、カメラワークの切り替えやテロップ等により変化をつける必要がある。会場に観客を入れずに、オンラインの視聴者のみをターゲットとする場合は、番組を作るような感覚でイベントを構築するのも選択肢となろう。



会場をスタジオに見立てて、地元ケーブル局によりオンライン配信に特化した映像コンテンツ作りに取り組んだ東海北陸ブロック



またコロナ禍に限らずこれからの社会は、予測不可能な変化が起きる社会になっていくといわれています。

パブリックビューイングという参加形態 (中国ブロックの例)



オンラインコンテンツは時間や場所にとらわれない参加形態がメリットの一つであるが、一方で、1人で視聴するとイベントへの参加の一体感が低くなる。

ライブ配信は時間が特定される制約はあるが、例えばどこかに拠点を設けて、大勢と一緒に視聴するなど、拠点でのイベントを設定すれば、本体イベントへの一体感が醸成されるとともに、拠点でのリアルなミニイベント的な開催が可能となる。

視聴するだけではなくリモートで「参加体験」 するという形態（近畿ブロックの例）



パブリック「ビューイング」にとどまらず、各拠点からグループワークに参加することで、場所にとらわれないイベント開催が可能。拠点に集まらないグループは、Zoomのブレイクアウトルーム機能でグループの個室を用意することで参加可能。（事例はZoomとLINEによる謎解きイベント）



菊川 哲平 (北海道ブロック) 北海道	岩館 智子 (東北ブロック) 岩手県	比嘉 里奈 (関東ブロック) 埼玉県	後藤 豊郎 (東海北陸ブロック) 岐阜県	宮本 隆司 (近畿ブロック) 大阪市	原 完次 (中国ブロック) 島根県	仲村 貴介 (四国ブロック) 高知県
----------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------	--------------------------------	---------------------------------

主催協議会会長 リモート座談会 要約版

変更の決定、東北は1ヶ月を切っていた！

菊川 北海道ブロックの研究大会は、中止という判断を(約3ヶ月前の)6月23日にして各地区へ連絡しました。ただ、昨年度の大会も中止となっていましたので、流石に2年連続中止というのには次大会に向けては厳しいだろうという話もありまして、何か皆さんに残せるものはないかと今まで積み上げてきたものを無駄にしないようにということで「教育講演会」と「北海道の特色ある実践事例発表」という2つの事業を進めることにしました。

岩館 2月に900人、1日開催(当初の半数規模)に変更して計画を立ててましたが、(本番の9月4日の1ヶ月前を切った)8月10日に無観客で行おうということになり、8月12日の岩手県独自の緊急事態宣言を受けて完全オンラインに切り替えました。

比嘉 かなり近々になるまで通常のリアル開催を目指して準備してききましたが、(もともと予定はしていたもののなので)ハイブリッドの開催に変更しますということまで2ヶ月前に一気に変更をかけたました。

後藤 半数のリアル開催を目指しましたが完全オンライン化することにしました。実はコロナ禍に関係なく1年前から全体会の講演会をストリーミング配信する計画にしていました。

宮本 2ヶ月前にオンライン主体に変更しましたが、紙ベースで参加者を集約するのは難しいだろうということで、イベント用のウェブツールを使って申込サイトを作り直しました。

原 9月の段階で最終決定しようというふうな形を取りました。1500人の会場を借りてたんですけども、結局キャンセル料を払うんだったらそのまま使ったほうがいいんじゃないかと、準備してきたことが途中でやり直しになってしまおうので、大きな会場でしたがそのまま使おうと6月の段階で決定しました。

仲村 おそらくリアルだけでは無理だろうということ、最初から配信も含めた開催方法にすると企画していました。最初は高知県以外はサテライト会場を設ける予定でした。

役員のICTスキルの必要性は

岩館 大阪市さんの方でホストのところ、うちは4つの分科会のうち3つを他県さんで。ホストを1つでやったというのはどういふうに？

宮本 何かあってもすぐに対応できるようにと1箇所であろうと。ただ、うちの役員もZoomのホスト経験がある人がそんなにいないので勉強会をやったのと、そういうのに長けている人をサブでつけました。

岩館 そこがうちも難しかったです。映像会社さんは映像に関してはプロなんですけどZoomは別だと。課題ですね。

オンラインは参加者の視点でのコンテンツ作りも必要

後藤 ご覧いただく方にとりうしたら最適化できるかというところで、番組仕立てにして、式典は壇上席を設けず、登壇の出入りもなくカメラワークのみで対応。また、ユニバーサルデザインを取り入れたので、手話ではなく字幕を利用しました。そのため文字原稿を一字一句間違えないようにタブレットをプロンプターがわりにカメラの横で流しながらそれを読んでいただいています。(全体会)

※ ポイントを要約し、再構成しているため、話の順も実際とは異なる。

主催協議会会長 リモート座談会



ここに掲載した以外にも参考になる話がたくさんあるため、座談会を編集した動画コンテンツを作成しています。



空席の観客席にダンボール観客を置いて賑やかし（四国）



タブレットをプロンプターにして原稿を表示（東海北陸）

仲村 客席の後ろの方に賑やかしてダンボール観客とこの置きまして、顔に四国の他の役員さんの顔を貼ったりしてみました。
宮本 オンラインの参加体験型分科会は概ね好評でしたが、やっぱり拠点に集まって参加したチームの方がより盛り上がりたような気がしました。

オンライン化で必要な経費は？

菊川 150万ぐらいかなという感じですが。業者さんがいろんな地区に回って撮ってもらったり。

岩館 当初取る予定のなかった会場使用料等も含めると250万円ぐらい、業者だけだと100万は行かない感じですが。

比嘉 全体会は、カメラマン2人で30万円、6分科会が業者を入れたところは50万円かかったところとかもあったようです。

後藤 地元のケーブル局ベースで全部で300万円ぐらいかかっています。

宮本 全体会は映像系の業者さんに40万円、分科会のZoomもホームページも自分達でやりました。

原 予算的に50万円以内と言われてたので50万円です。やってもらいました。

仲村 サテライトにもカメラを入れようとしたら150万円ぐらい要ると言われて。じゃあ、それなしで70万円ぐらいでした。

後藤 コロナ禍に関係なくもともと映像配信する予定でしたので、企業協賛で200万円集まりまして、大会の本会計からは100万円ぐらいで済んでいます。
比嘉 埼玉も協賛金を必死で集めてなんとか開催に漕ぎ着けました。

宮本 協賛金は、7年前の大阪市大会のリストをもとに各区Pで取り組んだんですが、コロナの状況を勘案して枠の金額も前回の半分に設定しました。

菊川 研究大会については（日Pから）補助金はなしという事なんですけど、取組み的には近い形のものを作ってこれるとい

とで別の形で補助はいただいています。
動画視聴にパスワードをつけるべきか

原 トラブル対応できないのとホームページから入らないと見れない形だったので、今回パスワードなしにはしたんですが、アーカイブでやるならパスワードつけようということにしました。

岩館 個人的にはみんなに見てもらった方がいいのにな

という気持ちはあるんですけども、参加費を払って見る人もいるので不公平じゃないかという声もありました。

後藤 パスワードは著作権関連と子どもの写真への配慮という趣旨ですが、講演内容をもっと見てもらうといいよという講師の方もあり、大会終了後は動画ライブラリーに移行してどなたでもご覧いただける予定にしています。

次年度の方角性について

菊川 基本的にはリアルでやりたい思いはありますが、リスクや地域によってはリアル開催の負担を考えるとハイブリッドで開催を目指していくべきかなと思っています。

岩館 気持ちはリアルでやりたいのですが、ハイブリッドの想定はついて回るのかなと思います。

比嘉 1・1というよりはハイブリッドはプラスアルファの考えでいきましようかという感じです。

後藤 オンラインも多種多様で、リアルでやればライブはほとんど必要ないのかなと思います。オンデマンドは教材としての魅力があるので、来年度の名古屋市さんにお伝えしています。

紙ベースよりもSNS等を通じて広めていくのがいいかなと考えています。

原 宿泊施設や交通の便、移動時間を考えるとハイブリッドでやらざるを得ないのかなと思います。

仲村 リアルの横のつながりと見逃し配信の両方のよさをというハイブリッドが今後の主流になってくるのかなと思います。

調査研究推進室メンバーから一言

29

関東	茨城県	畠山佳樹	埼玉大会は、コロナの感染拡大で状況が刻々と変化される中、さまざまな工夫をされていて、素晴らしいと感じた。コロナを機にデジタル化が進んだのは結果としてよかったので、今後はリアルなつながりが薄れてしまった分をデジタルで別の付加価値を出していくことが大切と思う。茨城ではこの部分は弱いので他県の素晴らしい取り組みを参考にさせていただき、改善していきたい。 その意味で、大阪市大会の分科会（謎解き）動画を拝見したが、素晴らしいの一言だった。子どもたちのため、という目的のために、従来の手段にこだわらず「何ができるか」を探求する姿勢は少しでも真似したいと思った。
関東	千葉県	濱詰大介	コロナ禍で昨年が続いてオンライン主体の研究大会とはなりましたが、各協議会で一部の方の現地参加もあり、今後のハイブリッド方式の研究大会の参考になったと思います。ぎりぎりまで通常開催を目指していたとのことで、日程等の変更など大変な作業だったとは思いますが、内容も今できる最善の方式だったと思います。今後コロナが落ち着いてきても、参加しやすい研究大会のひとつの指針が示せたのではないかと感じました。2年後には千葉県で関東ブロックの研究大会を開催することから、非常に参考になったいい大会でした。
関東	長野県	熊谷弘	コロナ禍でのブロック大会開催では、リアル開催とオンライン開催の二本立ての事業計画を用意する必要があります。本年度においてはリアル開催のみで組み立てられてきたので、ハイブリッド開催への切替などに少し手間取ったように感じます。日Pの大会でもそうですが主管される地域の会員の皆さんにはご苦勞をかける訳ですが、沢山の会員が集い学びあえる主管ならではのメリットが強調される大会が開催できて行ければ良いと思います…これからのアフターコロナでの大会も見据え、全てをコロナ前に戻すのではなく、ハイブリッド型での開催など進化が求られていると考えます
関東	横浜市	秋好直樹	オンラインの活用については、参加範囲を広げるという観点では、今後も有効に活用すべきと考える。 一方で、集合形式の良さをあらためて感じる結果にもなっている。 学び合い、つまり同じ課題を同じ時間に取り組むことにより、仲間から学ぶ、あるいは、共通言語を得るということにつながり、これからも必要。 オンラインか集合かの二者択一ではなく、うまく使い分けしたり併用したりすることだと考えます。
東海北陸	三重県	山羽賢多郎	オンラインでの開催となりましたが今後の大会運営の在り方など考える良い大会だったと思います。県内においても、今まで選ばれた方しか参加できなかった大会ばかりで、今回全ての会員が参加できることで、今後もこのような形で参加したいとの声がおおかったです。
近畿	京都市	大森勢津	日Pからの後援助成金の基準に関して、従前の開催方法のみを想定しているものなので、今回の各ブロックでの多様な開催方法にも適用できるよう、速やかに変更していただくと、より自由に工夫を施せるようになり、時代にあった有意義な大会にできるのではないかと思います。
中国	山口県	松永英治	山口県では、リモート配信については、個人で視聴できるとともに、県Pにてリモート会場を設けました。その県会場では、先輩の表彰式では拍手があったり、講演では感動を分かち合えたりで、大会会場に行けない中でも、リモートの配信を通じて仲間と時間を共有できる有意義な時間だったと報告がありました。アーカイブ配信は講演の著作権などで行えず、今後の他の企画運営をする場合の学びになりました。
四国	香川県	吉田誉範	四国ブロック大会は当初予定していた、サテライト方式での大会から完全リモートに変更して行われたが、とてもわかり易くて楽しい内容でした。配信トラブル等もなかったようです。
九州	宮崎市	岡本吉弘	宮崎市PTAにつきましては2月開催ですので、まだ感想はありませんが、大会はオンライン開催となります